

# 死んだサケを 野生動物採食

## ウヨロ川での調査結果報告

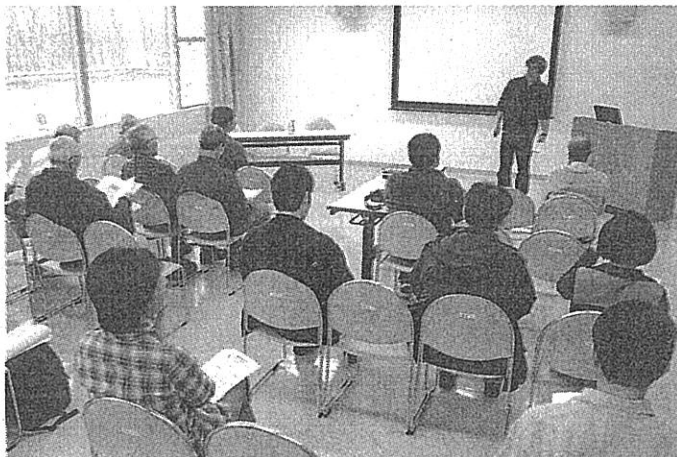
### クマ、キツネ、トビなど確認

#### 自 老

白老のNPO法人ウヨロ川環境トラスト(齋藤春生理事長)主催の「ウヨロ川サケ調査報告会」がこのほど、町総合保健福祉センターで開かれ、自然産卵後に死んだサケがキツネやタヌキ、トビなどさまざまな種類の野生動物に食べられていることが報告された。調査は日本財団などからの助成を受けて昨

年10、12月の2回実施。ウヨロ川河口から5.7kmの延長3区間で産卵床の数や自動撮影カメラを据え付けて、野生動物による死がいの採食状況を調査した。

サケの死体(ホッチャレ)は10月が974匹、12月が1675匹。食べられたホッチャレの割合は10月が28.3%、12月51.6%。10月は頭部のみを食べられているホッチャレが多く、クマやキツネ、タヌキが食べていた。12月にはトビの採食が確認された。これらのことから、サケが地域の生態系の中で物質循環の役割を十分果たしていることを示唆した。



約40人が耳を傾けたウヨロ川サケ調査報告会

岡本康寿・札幌市豊平区自然産卵魚の違いをテーマにした「2種類のサケ」放流報告した。(富士雄志)